

世界史 B

1 次の文章を読み、下の設問に答えよ。

紀元前8世紀の中国大陸では、西方の遊牧民による攻撃をうけた周が、都を東方の洛邑（現在の洛陽）に移した。それ以後、周の勢力はおとろえ、前3世紀まで分裂と抗争の時代が続いた。この時代は、前5世紀までが（ 1 ）時代、それ以後が（ 2 ）時代とよばれる。（ 1 ）時代の有力諸侯は周王を尊重し、その権威のもとで他の諸侯に優越する地位をえようとした。しかし、（ 2 ）時代になると諸国間の抗争は激しくなり、周王を無視してみずから王を称する諸侯がふえ、やがて（ 3 ）と総称される7つの国が有力となった。この時代は分裂の時代で、社会も激しく変化した。そのため、こうした状況に対応するためにさまざまな新思想が生まれ、^(a)諸子百家と総称される多くの思想家や学派が登場した。

（ 3 ）の1つである秦は、前4世紀に諸子百家の一派である（ 4 ）家の商鞅の改革で国力をつけ、他国を征服して前221年に中国を統一した。秦王であった政は、^(b)それまでの「王」にかえて「皇帝」の称号を採用した。彼は、中央から官吏を派遣して各地を統治させる（ 5 ）制を全国に施行し、^(c)貨幣・度量衡や文字を統一したほか、^(d)強硬な思想統制策をとるなどして、中央集権化をすすめた。しかし、遠征や工事などの負担を強制された人々の不満は高まり、政の死後まもなく各地で反乱がおこり、秦は統一後わずか15年でほろんだ。

その混乱のなか、庶民出身の（ 6 ）が楚の名門出身の（ 7 ）を倒し、前202年に中国を統一して皇帝の位につき、長安を都に漢王朝をたてた（前漢）。漢ははじめ（ 5 ）制と封建制を併用する（ 8 ）制を採用したが、その後しだいに諸侯の権力をうばい、^(e)それに抵抗した諸侯が前154年に起こした反乱も短期間で鎮圧して、中央集権体制を確立させた。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 8 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、(ア)儒家の祖となった人物と、(イ)道家の祖となった人物は誰か、それぞれ答えよ。

問3 下線部(b)に関連して、このことから政は何と呼ばれるようになったか、漢字3文字で答えよ。

問4 下線部(c)に関連して、秦が発行した統一通貨は何と呼ばれたか、答えよ。

問5 下線部(d)に関連して、秦王の政は、儒者が改革に批判的であるとの理由から、(ア)実用的なもの以外の書物をすべて焼かせ、(イ)数百人の儒者を穴に埋めて殺した。これらの思想統制策は、それぞれ何と呼ばれたか、それぞれ漢字2文字で答えよ。

問6 下線部(e)に関連して、この反乱は何と呼ばれるか、答えよ。

2

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

西ヨーロッパの封建社会は11世紀頃から、安定と成長の社会にはいった。農業技術の進歩や農法の普及^(a)によって農業生産は上昇し、人口も増大した。西ヨーロッパは内部の発展とともに、外に向かって拡大もしていた。なかでも大規模な西ヨーロッパの拡大に影響を与えたのが、十字軍^(b)であった。複数にわたる遠征はさまざまな結果を生み出し、その後の西ヨーロッパに無視できない痕跡を残すことになった。

封建社会の安定と農業の発展は、都市と商業の活性化をうながした。経済力が高まるなかで、西ヨーロッパの中世都市は11世紀から12世紀以降、しだいに封建領主から自治権を獲得し、自治都市になった。有力な都市^(c)は共通の利害のために都市同盟を結成し、大きな政治勢力を形成した。

しかし、14世紀頃になると、西ヨーロッパ社会に変化がみえはじめた。天候不順による不作や黒死病の流行などが、社会に多大な被害をもたらしたのである。また、西ヨーロッパ世界におよんでいたローマ教皇の権威も十字軍の失敗から傾きはじめ、各国で王権が台頭すると、さらに衰えをみせるようになった。こうして安定と繁栄のなかにあった中世西ヨーロッパの世界も大きく変容していったが、近代的な主権国家の誕生に向かう第一歩を踏み出したとも考えられるだろう。

問1 下線部(a)に関連して、耕地を秋耕地・春耕地・休耕地にわけて3年で一巡する、当時普及した土地利用法を何と呼ぶか、答えよ。

問2 下線部(b)に関連して、以下の文を読み文中の空欄(A)～(F)にあてはまる人名または語句を答えよ。

11世紀にエルサレムを支配していた(A)朝がアナトリアに進出したため、ビザンツ帝国は脅威を感じ、ローマ教皇に救援を要請した。教皇(B)は、1095年に(C)を開き、聖地回復のための大遠征を人々に訴え、熱狂的な支持を得た。こうして1096年、各国の諸侯や騎士からなる第1回十字軍が出発し、1099年にエルサレムの占領に成功した。しかし、その後、エルサレムはアイユーブ朝の創始者(D)にふたたび奪われ、これに対抗して第3回十字軍がおこされたが、成功しなかった。続く第4回十字軍が教皇(E)によって提唱されたが、十字軍はヴェネツィア商人の要求によって聖地回復の目的をすて、1204年にコンスタンティノープルを占領し、ラテン王国をたてた。フランス王ルイ9世が主導した第6回・第7回十字軍は失敗に終わり、1291年に十字軍最後の拠点(F)が陥落し、聖地回復の目的がついに達成されることはなかった。

問3 下線部(c)に関連して、リューベックを盟主とする北ドイツ諸都市の連合体であり、商業上の利益を目的とし、大きな政治勢力となった同盟を何と呼ぶか、答えよ。

問4 下線部(d)に関連して、以下の文を読み文中の空欄（ G ）～（ M ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

13世紀末に教皇になった（ G ）は、聖職者への課税をめぐる対立したフランス王フィリップ4世によってローマ近郊の（ H ）で一時捕らえられ、屈辱のなかで急死した。そのため、この事件は（ H ）事件と呼ばれている。その後、フィリップ4世は教皇庁を南フランスの（ I ）に移した。この出来事は古代のヘブライ人の強制移住にたとえて（ J ）といわれている。教皇がローマにもどってからも、（ I ）には別の教皇が立てられるなど、教皇が並立し、ローマ教会のなかで対立がおこった。これを（ K ）と呼ぶ。

教皇権の動揺は教会への批判を呼び起こし、キリスト教のなかに新しい思想を芽生えさせたともいえる。ベーメン（ボヘミア）の神学者（ L ）は、イギリスのウィクリフに共鳴しながら、聖書を中心とした信仰の原点への回帰を説いた。しかし、神聖ローマ皇帝の提唱で開かれた（ M ）で（ L ）は異端であると宣告され、火刑に処されたのであった。

3 次の文章を読み、下の設問に答えよ。

ヒトラー率いるドイツは、1938年3月に隣国の（ 1 ）を併合した。つづいて、多くのドイツ系住民が住んでいたチェコスロヴァキアの（ 2 ）地方の併合を要求した。列強は警戒心を強めたが、効果的な対策をとろうとはせずに、結果的にドイツの要求を認める姿勢（宥和政策）をとった。この宥和政策の頂点が、ドイツのヒトラー、イタリアのムッソリーニ、イギリスの（ 3 ）と、フランスのダラディエという4国の首脳によるミュンヘン会談（1938年9月）であり、この会談でドイツによる（ 2 ）地方の併合が承認された。

さらにドイツは、1939年3月から4月にかけて、ヴェルサイユ条約でドイツが失っていたポーランドの都市（ 4 ）の返還やポーランド回廊の通行を、ポーランドに対して要求した。しかし、ポーランドがこの要求に応じなかったため、ドイツは、8月23日に（ 5 ）条約を結び、相手国とポーランドの分割を約束した。9月1日にドイツがポーランドに侵入すると、イギリス・フランスが9月3日にドイツへの宣戦布告を行い第二次世界大戦が始まった。

ポーランド占領後、1940年4月から5月にかけて、ドイツは、デンマーク・ノルウェー・オランダ・ベルギーを攻撃し、さらに6月にはフランスを攻撃して、パリを占領した。パリ占領後、「ヴェルダンの英雄」（ 6 ）を首班とするドイツに協力的な政府（ヴィシー政府）が誕生した。ドイツが優勢になったのを見て、1940年6月に、イタリアはドイツ側に立って参戦した。ドイツはイギリスの諸都市への激しい空爆を繰り返したが、イギリスは、（ 7 ）首相の下でその攻撃に耐えた。ドイツはその一方でバルカン半島への侵略を強めたが、ソ連との関係が悪化し、1941年6月に独ソ戦が始まった。ソ連との戦争が長期化すると、ドイツは、戦争経済を支えるために、東西ヨーロッパの占領地から工業資源や食料を奪い、数百万人の外国人をドイツに連行して強制労働をさせた。また、ドイツ国内外のユダヤ人は、組織的な迫害とホロコースト（大量虐殺）の対象となった。さらに同年12月には日本の対米攻撃によって、アメリカが参戦した。これにより日独伊などの枢軸国対米英ソ連などの連合国という布陣が完成した。

1942年秋、英米連合軍は北アフリカで反撃に出て成功した。また東部戦線では、スターリングラードでソ連軍がドイツ軍を破り、これをきっかけに戦局は連合国に有利になった。イタリアでは、国王などによるムッソリーニ打倒が成功し、1943年7月に成立したバドリオ政権は、9月に無条件降伏した。1944年6月には、連合軍の（ 8 ）上陸作戦が成功して、8月にはパリが解放され、ドイツの敗色はますます濃くなった。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 8 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、多くのユダヤ人が、ポーランド南部の都市の強制収容所で、毒ガスなどで殺害された。この収容所は、1979年にユネスコから世界遺産として登録されたが、収容所のある都市の名を答えよ。

問3 下線部(b)に関連して、日本とアメリカの戦争は、当初は日本が優勢であったが、1942年6月に、ある島の攻略を目指す海戦での大敗により、アメリカに主導権が移ることになった。その海戦とは何か、答えよ。

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

朝鮮は1943年の米英中3国の首脳会談^(a)で独立が約束されていたが、第二次世界大戦後、北緯（ 1 ）を境界に、北半分をソ連軍が、南半分をアメリカ軍が各々進駐して分割管理した。その当初は、米ソ共同委員会で南北の統一方法が協議されたが、米ソ対立が激化したことで、協議が決裂した。その結果、1948年にアメリカは（ 2 ）大統領を中心とする大韓民国（韓国）の樹立を認め、北では、ソ連の支援を受けた（ 3 ）が率いる北朝鮮労働党が朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を成立させた。

1949年10月に中華人民共和国^(b)が誕生し、翌50年2月にはモスクワで（ 4 ）条約が調印され、中国は社会主義圏に属する姿勢を明らかにした。東西対立がアジアにおいて鮮明となりつつあった1950年6月、北朝鮮軍が（ 1 ）を越えて侵攻し、朝鮮半島南端の釜山^{ぶさん}に迫った。（ 5 ）は北朝鮮軍の行動を「平和の破壊」と断定して国連軍の派遣を決議した。米軍を中心とする国連軍が北上して中国国境に迫ると、ソ連と連携した中国が北朝鮮軍を支持して義勇軍を派遣した。1951年から戦局が（ 1 ）付近^{こうちやく}で膠着するなか、53年7月、休戦協定^(c)が成立して朝鮮半島の分断が固定化した。

その後、韓国では1960年に学生を中心とする民主化運動が高まり、（ 2 ）大統領が辞任したが、翌年の軍事クーデタで（ 6 ）が権力を掌握した。（ 6 ）大統領は強権的支配の下で、政治運動や社会運動^(d)を抑圧しながら経済発展を効率的に推進していった結果、高い経済成長率を達成するようになる。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 6 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、この会談が行われた場所として正しいものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. テヘラン イ. カイロ ウ. ヤルタ エ. ポツダム

問3 下線部(b)に関連して、最高指導者の毛沢東主席の下、死去する1976年まで一貫して国务院総理（首相）を務め、特に外交分野で顕著な手腕を発揮した人物は誰か、答えよ。

問4 下線部(c)に関連して、休戦協定が調印されたのはどこか、その地名を答えよ。

問5 下線部(d)に関連して、このような政治体制を何と呼ぶか、答えよ。